1.　評価結果概要表

評価確定日　平成21年度　10月　21日

【評価実施概要】

事業所番号	2271101145
法人名	株式会社　日本ケアクオリティ
事業所名	グループホーム　くすのき
所在地 （電話番号）	静岡県沼津市千本常盤町5－1 055－954－1812

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町　4番1号
訪問調査日	平成21年8月22日

【情報提供票より】（平成21年　8月　8日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	平成　17年　4月　1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18　人
職員数	18　人	常勤　13　人，非常勤　5　人，常勤換算　10.8　人	

（2）建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨　造り	
	2 階建ての　1 階　～　2 階部分	

（3）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	65,000　円		その他の経費（月額）	13,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 （入居一時金含む）	有（　65，000　円） 無		有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	200　円	昼食	400　円
	夕食	400　円	おやつ	円
	または1日当たり　円			

（4）利用者の概要（平成21年　8月　8日現在）

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	8	名	要介護2	4	名
要介護3	4	名	要介護4	2	名
要介護5	0	名	要支援2	0	名
年齢　平均	84.4 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	新井内科クリニック

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設後4年が経過し、千本地区の静かな周辺環境に恵まれゆったりとした空間の中で利用者が自分のペースで毎日を過ごし穏やかに落着いて生活していることがうかがえるホームである。若い管理者と職員が一体になって、ホーム運営への熱意を持っており、運営推進会議を定期的に開催し、地域との友好的な交流や、全職員で外部・自己評価の活用・改善への取り組みなどが実践されているホームである。今後の更なる取り組みとして、職員育成への計画的な取り組み、毎月のカンファレンスを生かした利用者毎の定期的なモニタリングと介護計画見直しの仕組み作り、ホームとしてのターミナルケア取り組みの整備などが期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況（関連項目：外部4）

管理者・職員は外部評価の意義をよく理解しており、前回の外部評価結果も毎月のカンファレンスで確認し改善への取り組みが確認出来た。

今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）

今回の自己評価も全職員が取り組み、ユニット毎のカンファレンスで各項目の取り組み状況を確認し一人ひとりの気付きに繋がる機会に成っている。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）

年間の開催予定を確立し定期開催を実施している。自治会長、地域包括、民生委員、老人会、地区社協、社会福祉協議会等の参加を得て、ホーム運営状況・課題等の話し合いが行なわれ、老人会との交流や地域放送の活用、ボランティアの紹介など有効に活用している。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）

相談窓口は重要事項説明書明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。毎月の近況報告の他、家族来訪時の面談、電話連絡などを通して、家族の意見等をカンファレンスで検討し、それらをホーム運営に反映させている。ホーム行事と家族会の開催を合わせたりその機会を増やす取り組みが行なわれている。

重点項目④

日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）

地区自治会に加入し、町内清掃活動や敬老会・地区防災訓練などにも参加している。日々の散歩や外出の際の挨拶や野菜などの差し入れもあり、老人会との交流も始まり地域との友好関係が築かれている。

2.　評 価 結 果（詳細）

（　　部分は重点項目です　）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム開設時に全職員で「私たちは、家庭の雰囲気の中で笑顔を絶やさず、ともに笑い、みなで幸せを共有できる空間を創っていきます」という理念を作り上げている。開設後4年が経過し、地域の中での生活を重視する考えをホーム運営理念に追加することを検討中である。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念は各フロアに掲示され、毎月のカンファレンス、日々のミーティングや申し送り時などに確認されその実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区自治会に加入し、町内清掃活動や敬老会・地区防災訓練などにも参加している。日々の散歩や外出の際の挨拶や野菜などの差し入れもあり、老人会との交流も始まり地域との友好関係が築かれている。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は外部評価の意義をよく理解しており、前回の外部評価結果も毎月のカンファレンスで確認し改善への取り組みが確認出来た。今回の自己評価も全職員が取り組み、ユニット毎のカンファレンスで各項目の取り組み状況を確認し一人ひとりの気付きに繋がる機会に成っている。	○	更なる取り組みとして、自己評価・外部評価の内容を各職員や、ユニット・ホームとしての課題として捉え今後の改善活動へ繋げることを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間の開催予定を確立し定期開催を実施している。自治会長、地域包括、民生委員、老人会、地区社協、社会福祉協議会等の参加を得て、ホーム運営状況・課題等の話し合いが行なわれ、老人会との交流や地域放送の活用、ボランティアの紹介など有効に活用している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険申請・事故報告書・研修参加などの行き来や、利用者についての相談や、事業所としての相談など密接に行われている。地域包括センター職員にも普段から気軽に声かけできる関係作りがされている。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月金銭収支報告と合わせ、各職員持ち回りで利用者の近況報告を手書きの手紙で定期的に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談窓口は重要事項説明書に明示され、ホーム内にも窓口を掲示している。毎月の近況報告の他、家族来訪時の面談、電話連絡などを通して、家族の意見等をカンファレンスで検討し、それらをホーム運営に反映させている。ホーム行事と家族会の開催を合わせたりその機会を増やす取り組みが行なわれている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	他ホームへの異動や離職など止むを得ない場合も有るが、各職員が持ち回りで利用者の近況報告を実施することで各利用者の状況を把握しており離職の際のダメージを防ぐ工夫を行なっている。		
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修制度や外部研修への情報提供、ホーム内での勉強会などが実施され、介護福祉士資格取得を目指す職員もいるが、計画的に職員を育てる取り組みには至っていない。	○	職員のレベルアップはホームの質的向上に繋がるため、自己評価などを活用し職員の課題やレベルに応じた研修・テーマ分担による勉強会・資格取得の支援等、職員を計画的に育成していく取り組みを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	沼津市のグループホーム連絡協議会に参加し、勉強会や情報交換を行なっている。系列他ホームとの交流はあるが職員同士の相互交流には至っていない。	○	管理者のみならず、職員が他ホームと交流することにより、相互の気づきや問題点解決のアイデアを得るなどの効果も期待できることからその機会を作り出す取り組みを期待したい。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用予定者や家族との面談や自宅訪問を行い、入居前にホーム来訪を促し利用者や家族が、少しずつホームに馴染む機会を作っている。職員へのきめ細かな情報提供や他の利用者の協力を得ながらホームの雰囲気に馴染めるよう工夫している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者とともに過ごすように心掛け、買い物、掃除、食事作りなどを一緒に行うことで利用者の充実した生活が送れるよう支援に徹している。料理の仕方や味付けなどを教えてもらったり、昔の生活や出来事などを聞きながら利用者と信頼関係作りを大切に考えている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、今までの生活状況等をアセスメントシートに記入し、ホーム長や、職員が利用者の思いや、暮らし方の希望を把握する様につとめている。あくまで本人の意思を最優先に考え、利用者の視点に立ったケアに、全職員で取り組んでいる。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人や家族からの要望を基に、アセスメントを行い毎月の会議などで話し合い、介護計画を作成している。介護計画には常に新しい情報を取り入れ、本人がより良く暮らすために何を取り入れたら良いのか、職員が情報を共有して介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態変化を常に確認しながら、3ヶ月、6ヶ月を基本に、家族や関係者と話し合い現状に即した介護計画の見直しを行っている。カンファレンスでは利用者の意見や希望を検討しながら、個々の状態に応じた計画をたて支援している。	○	更なる取り組みとして、介護計画に基づいた日々の支援を行い、その状況や日々の変化を毎月のカンファレンスで確認、モニタリングを行い、介護計画見直しへ繋げる仕組み作りが期待される。

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望に応じて、家族との外出、またパンが大好きな利用者には、週1回買い物に出掛けるなど、様々な外出支援を随時実施している。通院介助などは本人の状況に応じて、家族と相談しながら行われている。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人、家族等と話し合い、かかりつけ医の継続やホーム提携医療機関への移行など、適切な医療を受けられるよう支援している。通院や定期健診などは、出来るだけ家族の協力をお願いしているが困難な場合は職員が支援している。日々の健康管理には医療機関とホームとの連携で、十分な配慮が感じられる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルケアのあり方については、全体会議の中で話し合われ法人での基本指針など作成されてはいるがホームとしての対応方針や、医療機関との協力体制などはまだ十分とはいえない。	○	法人の基本方針や同意書なども作成されているので、ホームの中で全職員での話し合いや研修会等で方針の共有や意思の統一などの取り組みを期待したい。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	さりげない見守りや対応など、利用者の誇りを尊重し言葉掛けは十分な配慮をしている。プライバシーの確保については、全職員が理解している。また個人情報の取扱いについても、ケースファイルや関係書類は専用棚に的確に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は毎日の暮らしの中で、ゆっくりと時間が経過する様な雰囲気作りを心掛けている。他の利用者との兼ね合いで、希望に添う事が難しい時などは、必ず、ちょっと待ってね、の一言を声掛けするように努力している。職員が様々な工夫をすることで、その人らしい暮らしの確保に努めている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の体調面を考えながら、食事の準備や後片付けなど出来ることから職員と一緒に行なっている。食事時間には楽しみな時間になる様、コミニュケーションを取りながら一人ひとりのペースに合わせて職員全員で様々な支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や時間に添うよう、入浴の支援をしている。基本的には最低週2回は入浴できるよう、様々な工夫をしている。足湯や入浴剤を使用したり、またゆず湯など季節に応じたお風呂を提供するなど、ホーム長や職員が色々なアイデアを出しながら支援している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ホームの周辺には市街地で在りながら四季の季節感を楽しめる環境があり、利用者には散歩の時など海岸や河川の桜並木等、気晴らしの対象になっている。また買い物やランチなどに出かけたり、職員と一緒に自家菜園の収穫や洗濯物干し、たたみなど楽しく暮らせる様支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム長、職員は利用者の要望を聞きいれながら、希望に沿って外出支援を行っている。すぐ近くには駿河湾もあり、潮の香りも楽しめるなど、一人ひとりの状態や希望に合わせて職員全員で散歩等の外出を支援している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者、全職員は日中鍵をかけない暮らしの大切さを理解している。事務室が玄関の横にある為、さりげない見守りが出来るようになっている。また利用者が一人で外出しようとすると、無理に止めようとせずに職員がそっと後ろから、支えるようについて行き、ベンチで話をするなど工夫しながら支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を行っている。自治会活動にも積極的に参加している為、地域住民の協力も得られ、災害時での応援や協力を得られるよう働きかけている。また備蓄食糧や水の確保も的確に管理されており、緊急時のマニュアルもできている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の体調面を考えながら、食事量や栄養バランスなど摂取状況を、毎日記録している。また水分量の確保については、10時と15時に水分を提供し、必ず記録に残し利用者の状態に合わせて、職員が工夫しながら支援している。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の共有空間は派手さはないが、落ち着いた雰囲気が感じられる。窓からは明るい日差しが差し込み、住宅地である為不快な音もしないので安心して生活出来るようになっている。季節に応じた飾りつけは見られたが利用者の日ごろの写真や趣味の作品などはあまり見られなかった。	○	落ち着いた雰囲気ではあるが、利用者が居心地よい生活感を楽しめるよう日ごろの様子や家族等の写真や利用者の手作り作品などを飾り、家族が来訪された時に、楽しくなるようなアイテムに工夫が望まれる。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の居室には、居心地良く安心して毎日を暮らせるよう、長年使い馴れたタンスや家具などを身近に置ける様配慮している。馴染みのある好みの持ち物に囲まれ、その人らしい生活感のある居室となっている。		